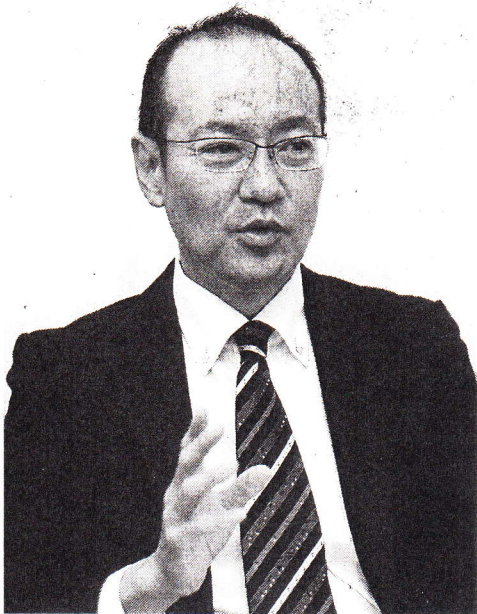


祝日増え個人消費刺激

2019年の県内経済の展望を日銀水戸事務所の吉田豊所長に聞いた。

「金融経済概況では17年10月から『緩やかに回復している』という判断を継続している。その前の『緩やかに回復しつつある』という判断は3年半継続し、この期間を合わせると息の長い回復基調にあった。この1年も、非常に安定した景気だった。海外の経済成長が安定し輸出が増加したことや国内需要が堅調に推移して県内の製造業、生産水準が非常に安定していたのが要因。生産が安定するこ

吉田豊・日銀水戸事務所長



県内経済の展望を語る吉田豊日銀水戸事務所長（水戸市内）

とで企業の収益も上がり、た

業況感が改善される。それが設備投資の増加や賃金の上昇を生んだ。公共投資や住宅投資はいまひとつだ

が、良い循環による成長が補って余りある状況だ

19年の県内経済の見通しは。

「今年はある意味、正念場を迎える。新天皇即位やラグビーワールドカップ、東京五輪・パラリンピ

働き手確保、工夫を

ツクまで1年を切り、県内では茨城国体が開催される。祝日も例年より増え、旅行などで個人消費が刺激される可能性もある。一方、米国のマクロ経済政策や米中の保護主義的な動きなど、予測の付かない状況で多くの企業が漠然とした不安感を持っている。加えて、消費税の引き上げも控える。過去の消費増税では引き上げ直前には駆け込み需要が発生し、引き上げ後は反動でマイナス成長になってきた。行く末は注目点となる。基本的には華やかなお祝いムードがめじる押しで、海外・国内経済ともに悪い話がなく、回復傾向を継続すると思われるが、リスク要因もあり正念場を迎えるだろう」

「県内経済が抱える課題は。業種や規模を問わず企業では人手不足で、働き手の確保が課題だ。人が定着するよつな魅力ある仕事や職場を構築していく、工夫の余地を追求していくことが有効だろう。また、子育てや介護をする人、高齢者、ハンディキャップがある人など、フルタイムで働けない勤務に制約のある人を活用していくことも真剣に考えるべき局面に来ている。また、県内企業に限らずわが社、わが身を振り返って襟を正してほしい。景気がじわじわと改善している中、昨年は社会全体として意識の緩みか、危機感や使命感が後退していると感じる事例もあった。平成最後で新しい元号も始まる1年。これまでに振り返り、虚心坦懐で臨んでほしい」